
仮想（バーチャル）

抹茶小豆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バーチャル
仮想

【コード】

N9896J

【作者名】

抹茶小豆

【あらすじ】

わたし、橘美咲24歳でえーす！

病院でかんごふさんをやってまゝす (^ ^) /

画面に表示された、カラフルなホームページ。

写真こそ掲載されていないが女の子らしく、可愛いでデザインだ、と太一は思った。

わたし、橘美咲24歳でえーす！

病院でかんごふさんをやつてまゝす（＾＾）／

画面に表示された、カラフルなホームページ。

写真こそ掲載されていないが女の子らしく、可愛いでデザインだ、と太一は思った。

「美咲ちゃんかあ」

まあ、本名ではないだろうけど可愛い名前だなあ。

思い切り鼻の下を伸ばしてみる太一だった。

女・美咲・24歳・看護婦Ⅱ（イコール）美人

どうやら太一の頭はそんな方程式をはじきだしたようだった。

彼の頭の中で、愉快的妄想が広がり展開していく…。

速攻でお気に入り登録し、やがて美咲のホームページを見ることが、白石太一にとって日々の日課となつていった。

美咲のホームページは人気があり、サイト内でもダントツのアクセス数だ。

しかも、そこに集まるのはたいていが男ときている。なにか妙な闘争心さえ心に芽生えてしまう太一であった。

出勤前に、もう一度彼女のホームページをチェックする。

美咲がどうやらチャットに参加しているようだ。

太一が美咲にメッセージを送る。

T a i c h i : 夜勤、お疲れさま

サブ：オツ

正露丸：おつ

美咲：ただいま

T a i c h i : おかえり

おかえり

そうメツセージを送り、なんとなく太一の心が温かくなる。

美咲：今日はちょっとブルーなんだ…

正露丸：なになに、どうしたの？

サブ：何でも相談に乗るよ

美咲：実は私好きな人がいるんだけど…。

太一は頭から冷水を浴びた気がした。

パソコンの電源を落とし、静かに家を出る。

胸の中にぽっかりと穴が空いたように、すーすーしている。

一人きりであるより、ひよっとするとこういつた雑踏の中にいたほうが、孤独というものを感じるのかもしれない。

そんなことを思い、少し泣きそうになっている自分に気がついた。今更ながらに思うけど、俺は彼女のことを、好きだったんだ

自分でも気がつかないうちに、どんどん彼女に惹かれて行って…。

ふと見上げた空が青い。

うじうじと悩むんじゃなくて、俺は男らしく彼女の恋を応援しよう。そう決心し、太一はひとつ頷いた。

会社に着くと、隣の席の大山先輩が、にやにやしながらパソコンを覗き込んでいる。

「ちいーっす！白石」

俺に気づき、ひらひらと手を振る。

メタボな体型に度のきついメガネをかけた正真正銘のオタク男である。

額に巻いた時代遅れのバンダナが、じんわりと汗で滲んでいる。

「何を朝から一生懸命にやってるんです？」

太一が大山のパソコンを覗きこむ。

そこに映されているのは美咲のホームページであった。

「え？これって」

「きひひ〜男って馬鹿な生き物だよな。」

看護婦、24歳ってだけでこんなに群がってきやがる」

ごつく、ぶっとい指先がキーボードを走る

美咲：よ〜し、みんなにいっぱい勇気付けてもらったし、明日こそ先生に告白するぞお〜

太一の頬に一筋の涙が伝う。

「はは、太陽が眩しいや…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9896j/>

仮想（バーチャル）

2010年10月11日13時50分発行